

活彩!保健大学だより

AOMORI UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE

第10号/平成16年7月28日発行 青森県立保健大学広報誌



入学式



平成15年度卒業記念パーティ



新入生合宿研修



オープンキャンパス

CONTENTS

学長挨拶	2	卒業生からのメッセージ	15
副学長就任挨拶	3	就職関係報告	16
事務局長就任挨拶	3	自治会・サークル活動紹介	17
新入生歓迎挨拶	4	健康科学教育センター活動	19
新入生のことば	6	健康科学研究センター活動	20
上級生のことば	8	インド国ベンガル州への研修	21
新入生合宿研修	10	進学相談会・オープンキャンパス	22
卒業証書学位記授与式・卒業記念パーティ	14	人事異動	23

新入生歓迎のことば

青森県立保健大学
学長
新道 幸恵



本学の地域貢献としての人材育成

今年3月の開学以来第2回目の卒業生を社会に送り出しました。就職率は昨年の98.6%に引き続き、96.7%という好成績でした。新しく社会に旅立った人々が、約2ヶ月を経過した今頃、新しい職場でのリアリティショックを克服し、適応に向けた歩みを始めていることを念じています。

本学では、ヒューマンケアを提供できる保健医療福祉の専門職者の育成を目標に、学生中心の教育に取り組んできました。その一環として学生の就職への支援に力を入れてきました。学生が希望する就職場所を得ることができるように、就職特別対策部会を中心に、学生相談、学生への適切な情報の提供などを集団、あるいは個別に行ってきました。その成果が就職率に示されているといえます。しかし、今後は、卒業生のフォローアップに取り組み、その成果を教育や就職対策などに活用できるようにしたいと考えています。また、卒業生の職場適応を支援する仕組み作り、たとえば、卒業生の職場への院内教育システム支援プログラムの作成、卒業生の相談窓口の開設などを卒業生や職場の方々のニーズを把握しながら着手することも考えています。

本学は、青森県の県立大学として開設された経緯を受けて、地域貢献を教育理念の重要な柱として位置づけてきました。本学が目標とする地域貢献は、青森県の保健医療福祉の向上に寄与することです。その要は、人材育成つまり、保健医療福祉の専門職者の育成であることは言うまでもありません。これまで、健康科学部において看護職者、理学療法士、社会福祉士の保健医療福祉に従事する専門職者を合計314人社会に送り出しました。そのうち、45.5%の卒業生が県内に就職していきました。その中には、県外出身者が6.1%含まれています。又、県外に就職した人々も、何年か後には、県内に職場を求める人、本学の大学院生として帰ってくる人もあるでしょう。或いは、県外にしながら、研究や教育活動などで、青森県の保健医療福祉の向上に寄与する人も出てくるでしょう。地域貢献としての人材育成を、学生の卒業時点の就職率のみではなく、長期的な展望で考えることも必要ではないかと思っています。現在、本学では、健康科学研究科修士課程に保健医療福祉の高度専門職業人を目指して学習する41名の学生を受け入れています。次年度からは博士課程において、保健医療福祉の研究者、教育者の育成を開始できることを念願して準備を進めているところです。

本学では、保健医療福祉の実践の場で働いている人々を対象にして開学以来継続している研修会も本学の人材育成の重要な柱として位置づけています。平成15年4月からは、健康科学教育センターの発足によって、系統的にテーマ別の研修を開催しています。昨年度は、家族看護研修や理学療法臨地実習教育講座等をテーマにした1週間から3ヶ月間等の研修会が、看護職者や理学療法士などの専門職者を対象に6コース開催されました。次年度からは新たな発想によって認定看護師(6ヶ月間)や認定看護管理者(セカンドレベル)等の資格取得を目標にした研修会を計画しています。

本学は、今後とも、保健医療福祉に関するリカレント教育の場として県民の皆様親しく活用される場としての発展を目指しています。

今年の開学記念日にピンク色の花を咲かせるマロニエを2本植樹しました。八甲田連峰を借景とするキャンパスに新たな彩りと趣を添え、訪れる人々を和ませてくれることでしょう。

[副学長 就任挨拶]

誇りと夢を抱ける大学に

—地域貢献活動の推進—

副学長
田崎 博一



保健大学は開学以来6年目に入り、大学院修士課程は来春完成年次を迎えます。現在、来春の博士課程設置認可に向けて準備を進めているところです。健康科学教育センターと研究センターも地域貢献、国際交流、研究開発の領域で着実に成果を積み重ねています。本学はまさに“伸び盛り”で勢いのある大学と言えるでしょう。今春すべての国立大学が国立大学法人となり、県行政抜本的見直し検討項目に「本学の公立大学法人化」が提示されました。今後、法人化を視野に入れた大学運営が求められています。法人化に伴いさまざまな意識改革が必要になるでしょうが、私は「Accountability」の重要性を指摘したいと思います。説明責任、すなわち、大学が何を目指し、具体的に何をしているのか、それらはいかなる成果をあげているか、そういったことを社会に対して明確に説明する責任です。

大学一般の基本的使命として教育、研究、社会貢献（地域貢献）があげられます。この中の地域貢献活動は本学が県費により運営されていることを考えてもきわめて重要です。すでに本学では地域専門職者との共同研究、専門職者研修、地域保健福祉事業への参画など地域の医療保健福祉向上を目的としたさまざまな活動を展開してまいりましたが、今後、これらを基礎に、「地域貢献」という軸を明確にして効率的かつ積極的な活動を推進し、その成果を社会に説明していきたいと考えています。そのための大学としての体制も整備しなければなりません。

説明責任を果たすことによって本学が社会から認知され、在学生、卒業生、保護者、教職員、本学にかかわったすべての人が「誇り」を抱ける、そのような大学を目指したいと思います。厳しい時代です。危機感を持ちながら、しかしその一方で「夢」も抱き、保健大学の運営に微力ではありますが力を注ぎたいと考えております。

[事務局長 就任挨拶]

一日一日を大切に

事務局長
長嶺 洋一



本学から徒歩30分の戸山団地に居を構えている私にとって、朝夕の通勤が楽しめる季節になりました。木々の緑があざやかで、小鳥のさえずりも耳に心地よく響きます。

学校と名のつくところへ通うのは、35年ぶりであり、いささか緊張気味であったのですが、そういえば、年に数回の試験に煩わされることはないのだと自分に言い聞かせ、落ち着きを取り戻しました。

さて、本学は、日本を代表する建築家である黒川紀章氏の設計により建設され、保健医療福祉の中核となり得る看護、理学療法、社会福祉の各専門職を育成することを目標に平成11年4月に青森県では初めての県立大学として開学し、この3月には2回目の卒業生を送り出したばかりの新しい大学ですが、建物、設備、機材の充実はもとより、優秀な教員スタッフが揃っており学生にとってこの上ない環境であると思われまます。

学生の皆さんには、自分たちは恵まれているのだという自覚と、幸せをまづもって噛みしめていただきたいと思います。

また、青森県立保健大学は、その建設費から毎年の運営費の大部分が、この長引く不況のもと懸命に働いている県民の税金が投入されているということも忘れてはなりません。

過ぎ去った日々は帰りません。かつて、みちのく銀行の頭取を務めた故唐牛敏世氏は「この秋は雨か嵐か知らねどもきょうのつとめの田草とるなり」と詠んでいます。いたずらに明日のことを思い煩うことなかれということであり、同時に今の自分に与えられた職責をしっかりと果たしていくことが大事だと言っているのです。一日一日を大切に、皆さんの夢が叶うことを願いたします。

入学おめでとう 善い友といい食習慣を



人間総合科目主任教授
松江 一

新入生の皆さん、青森県立保健大学によろこそ、無我夢中で過ぎた入学式、ガイダンス、授業スタート、そしてゴールデンウィーク、本当に慌ただしく過ぎたここ1～2ヶ月だったことでしょうか。このような光り輝く、慌ただしい時期も、人生にはそれ程多くあるものではありません。そして休み明けに出てきた君たちは、何かとことなくそれまでなかった大学生らしい雰囲気も身に付いて、さらに成長したなと言った感がありました。それからの君たちを見ていると、益々張り切る人、着実にこなしている人、又何か憂うつそうな人も見受けられます。それでいいのです、学問、クラブ活動、恋愛、遊びに、多いに悩み、失敗し、そして挑戦し、できれば若者らしく、大学生らしく高校生とは一味違う節度を持って物事に対処し、乗り越えて行って下さい。そして、手に余ったり、考えがまとまらなかつたり、抜けない閉塞状態になる前に、気軽に友達や先生を捕まえて相談、ディスカッションして下さい。見方を変えると又新たな自分や視界が開けるでしょう。

そうそう、それにもう一つ大事な事があります。食べることです。皆んなよりも若干長く生きている小生の心がけていることは、どんなに忙しくても「時間が来たら飯を食う」！！これは成績の善し悪しに関係なくでき、何をやっても長続きしない小生が今でも心がけている数少ない人に勧められる習慣です。そうすれば若い君たちはかなりの困難な仕事やプレッシャーも笑って乗り越えられますよ、「腹がへったら戦ができない」と昔の人は良いことを言ったものです。

特に、将来職業を持った女性として働き続ける事が多い君たちが、いかに賢く食事を取るかは、大げさではなく、これからの日本の将来を左右することになるでしょう。自炊、中食、外食、インスタント、コンビニ等、両親から独立し周りには食べようとすれば、何でも容易に手に入るこの頃ですが、一日一回はしっかりした食事をとり、帳じりを合わせよう、君たちの時代にどのような食事をしたかが10年後、20年後、そして人生の長い道のりを歩き続ける基本となるのだから。

看護専門職をめざす



看護学科教授
大井 けい子

入学してはや3ヶ月が過ぎました。大学生生活には慣れたでしょうか。

看護師は看護の字のごとく手と目で人間の健康を護ることを生業とする専門職です。看護学科ではそのための学問を修めます。人間の誕生から死ぬまで、その人がその人らしく生きていくことを援助します。看護はその人の身体的健康だけでなく、心理的にもよい状態である様に、そしてその人を取り巻く家族や地域社会や自然からの影響にも関心を寄せています。

看護の対象は統一体としての人間ですから、疾病が回復すれば良いだけではなく、看護は健康状態の変化や病気の進行に伴って生じてきた恐れやわだかまりなどの感情をその人が気づき理解することができるように援助することです。この援助によって、人は自分の価値を再認識し、困難な状況や問題を解決していけるエネルギーを持ちます。また、人々が暮らす社会や文化を知ることとても大切なことです。それらは、人間の健康に多くの影響を与えるものがあるからです。

このように、看護学は人間に関わる広い領域から成り立っています。つまり、看護学は学際的な学問であると言っても過言では無いでしょう。皆さんはこの4年間の大学生活で、積極的に主体的にチャレンジすることを希望します。さらに、生活経験を豊かにするためには図書館を活用し、文学作品やさまざまな本をたくさん読んでください。そして青森の自然に親しみ感動する心を養ってください。それらは全て、あなたの教養を豊かにすると共に人間性を培い、看護に役立っていくでしょう。看護学科の教員は皆さんの目的が達成できるよう、支援する準備を整えています。



理学療法士にとって大切な「3つのH」



理学療法学科講師
藤田 智香子

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。お祝いとして、恩師がよく話されていた「理学療法士にとって大切な「3つのH」」について、多少私なりの解釈を加えながら皆様にお伝えしたいと思います。

一つ目は「Head」です。本来は「頭」を指しますが、ここでは知識や知恵、思考能力を意味します。理学療法を実践するためには基本的な専門的知識が必要不可欠ですが、実際にはそれらを個々の対象者の状態に併せて応用する能力や知恵も必要です。

二つ目は「Heart」です。一般的には「こころ」を指しますが、理学療法士として常に熱意・誠意、そして思いやりを持った関わりが必要です。

三つ目は「Hand」です。すなわち「手」ですが、理学療法士は対象者に「手」で触れて、その感触から対象者に関する様々な情報をキャッチします。たとえば立っているとき、どの方向へどの程度倒れやすいかなど体の中に起こっていることと、不安感や緊張感など心の状態も感知できます。また、逆に「手」から対象者に情報を発信します。たとえば適切な方向へ動きを誘導したり、対象者の最大限の能力を引き出すようお手伝いします。一言で言えば「Hand」は「技術」を意味し、精巧な器械よりもっと優れた働きができる、理学療法士にとって武器となる大変重要な部分です。

皆様はこれから「Head」に新しい知識をインプットし、自分で考えて問題を解決していく過程を学習されるでしょう。また、実習では「Hand」で感触を確かめつつ、技術を習得されるでしょう。

「Heart」についても、大学生活など様々な折に学ばれていくでしょう。これから皆様は理学療法士になるための勉学に励まれるわけですが、私達もそのお手伝いをさせて頂き、それぞれがめざす理学療法士に少しでも近づけるよう共に歩んでいけたらと心から願っております。

社会福祉の専門職をめざして



社会福祉学科教授
大和田 猛

ご入学、おめでとうございます。これから4年間大学生活を送ろうとする皆さんに、歓迎の言葉を申しあげます。社会福祉学科では、アドミッション・ポリシーとして、「社会福祉に対する情熱を持ち、他者の立場を考え、約束を守り、相手とコミュニケーションのとれる学生を求める」ということを掲げています。看護師、理学療法士と同じように、社会福祉士という仕事もヒューマンケアを実践する責任の重い対人援助職とされています。したがって、社会福祉のニーズを持っている利用者の立場を考え、コミュニケーションをしっかりと取りながら、約束を守り、責任を果たしていくことが強く求められています。

「社会福祉士及び介護福祉士法」にも、専門的知識及び技術をもって日常生活を営むのに支障があるものの福祉に関する相談、助言、指導その他の援助を行うこと、と規定されております。この4年間の大学生活を通して、しっかりと専門的知識や技術を修得し、利用者の方々に安心感、信頼感をもっていただく職業人として人間的にも成長していき、4年後、大学を卒業するときには、素晴らしいソーシャルワーカーとして、社会に飛び立って行くことを期待しております。

そのために、先輩や同級生、他学科の仲間、先生方と色々な機会を見つけて、関わって下さい。サークル活動やアルバイト、ボランティアなど様々な経験を意欲的にして下さい。また、人の痛みを知ること、思いやること、礼儀正しいこと、挨拶がきちんとできること、相手の立場を理解すること、笑顔を絶やさないうこと、物事をきちんと説明できること、優柔不断ではなく自分の意見や意思をはっきりもつこと、などもヒューマンケアを実践する専門職にはとても大事なことです。これからの4年間で少しでも自分を鍛えて下さい。

保健大学に入学して

看護学科
1年

工藤 晶子



大学に入学して、早いもので2ヶ月が過ぎた。この一年を振り返ってみると、まさか、1年後に大学に入学しているとは夢にも思わなかったというのが正直な気持ちである。去年の今頃は、青森市内の会社でOLをしていた。以前から看護の仕事に憧れと重要性を感じていた私は、保健大学に社会人入学があることを知り、受験に望むことを決意した。入学試験の手ごたえから、合格するとは思っていなかったため、合格したとわかったときは、奇跡とさえ思ったものである。

合格が決まり、大学生活への不安もよぎった。年の離れた同級生とうまくやっていけるだろうか勉強についていけるだろうかなどであった。しかし、周囲からの励ましと、何事も挑戦と常日頃思っている私は、今年3月に8年勤めた会社を辞め保健大学の一学生となった。

いざ、保健大学に入学してみると、思っていた不安は払拭された。特に、年の離れた同級生との生活は、非常に新鮮で、考え方や物事に対する熱心さなど日々教えられることが多く、今では、同じ目標に向かって夢を語り合う仲間であると感じている。

また大学の授業は、非常に質が高く、テストやレポートも多く忙しいが、日に日に成長していくように思わせる授業内容である。ネイティブによる生きた英語を学ぶことができ、さらにはこれから必要不可欠となってくるコンピューター教育、そして看護学の専門分野においては、看護技術の習得や看護学の学習により、看護とは何かを考えさせられ、学ぶ意欲が掻き立てられている。

今後、講義や演習、実習を通して、多くの技術と知識を身に付け、21世紀にあるべき看護師に一步でも近づけるよう頑張っていく。



保健大学に入学して

理学療法学科
1年

三浦 隆之



3月8日に合格通知をもらい、第一志望だったこの保健大学に入学して早いものでもう2ヶ月が経ちました。毎日の授業や勉強は決して楽なものではありませんが、それでも日々将来のために勉学に励むことができるのはとてもうれしく充実したものです。今ではもう大学生活にも慣れて毎日楽しい大学生活を送っています。

しかし初めの頃は、高校とはまったく違う大学生活に慣れることが大変でした。大学には高校とは違うことがたくさんありますが、その中で最も違うことは、大学は自由であるということです。高校の授業はほとんど義務教育みたいなものでしたが、大学はそのような場ではありません。保健大の授業にはもちろん必修科目はありますが、選択科目もたくさんあります。人間総合科学ゼミのような、生徒自ら科目を選択して、学習したり知識を深めたりするというものは、これまでの高校の授業とはまったく違うものです。またテーマを決めて、研究し、発表するような機会もたくさんあります。私は入学当初は、空き時間に暇を持て余したり、授業態度も受動的であったと思います。しかし今では、大学は自由だからこそ、個々人の主体性というものが求められると思っています。特に保健大は、大学での知識や技術がそのまま将来に直結する非常に専門性が高い大学です。だからこの2ヶ月間で主体性を持って考え、物事に取り組む重要性を知りました。

これからは学年が上がるにつれて勉強はもっと大変になると思います。しかし、理学のみんなや他学科の仲間たちと一緒に交流したり、勉強したり、また様々な人との出会いを通して、知識や技術だけでなく人間性も養い、立派に成長していきたいと思っています。

新しい出発

社会福祉学科
1年

石母田 ゆう子



不安と緊張の入学式を終え、親元を離れての一人暮らしを始め、早くも2ヶ月がたちました。祖父の死去をきっかけに社会福祉を学ぶことを決意し、保健大学へ入学しましたが、始めは何もわからないことだらけで不安感だけが襲ってきました。

しかし、同じ目標を持つたくさんの仲間達と出会い、少しずつ心の中の不安感は消えてゆきました。そして、新入生の交流合宿では、心強いたくさんの先輩方が優しく迎えてくれました。先生方も話をする機会があり、相談に対して熱心に答えてくださいました。合宿をきっかけに、困ったときに支えてくれるたくさんの人がいることに気づき、とても安心することができました。

一番不安だった授業ですが、「福祉とは何か?」「生活問題とは何か?」など、今まであまり深く考えたことのないような質問をされたりして、初めはすごく戸惑いました。授業の中でビデオを見て、号泣してしまったこともありました。しかし先生の話聞くうちに、新たな発見や、考えさせられることが多くありました。やはり福祉は難しいけれども、これからも目標をしっかりとてて授業に臨もうと思っています。

授業だけでなく、サークル活動などに参加したりして息抜きしたりもしています。サークルやその他の活動に参加したことで、看護や理学療法学科の仲間もたくさんできました。今は自由な時間を好きなことにつきこみ、充実した生活を送っています。勉学についても、目標や初心を常に忘れずに励んでいきたいと思っています。そして福祉は決してゴールのないものなので、もっと知りたい、もっと学びたいと思う気持ちで、これから頑張っていこうと思います。



新しい環境での学び

社会福祉学科
2年(編入生)

伊藤 洋子



私が青森県立保健大学の2年生に編入学して、2ヵ月になろうとしています。2年生とはいっても、新入生と同様私は本学に入学したばかりで、緊張やとまどい、驚きや喜びを抱えながら、毎日を過ごしています。環境の変化もあって、体調を崩しかけた時期もありました。けれど今は少し落ち着いて毎日を過ごしています。

1年生と2年生の授業を同時に履修しているので、時間割自体も少し大変です。今まで他大学でも福祉について学んできたつもりでした。しかし、本学での一つひとつの講義は、改めて初めて学ぶことが毎日たくさんあります。わからないことの方が多くいでしょう。今私は一から学びなおしているという気がします。それゆえ、日々はいつも貴重なもののように思えます。

入学してから2ヵ月が経ち、大学生活にも少しずつ慣れてくるようになりました。そして改めて、「自分は何について学びたいのか、将来どんな分野を目指したいのか」について色々考えるようになりました。この大学に編入学を希望したのは、「介護以外にももっと福祉の様々な分野に関しても勉強したかったから」です。今はまだ「これ!」とは決められず、日々先生方からの話を聞きながら、自分の中の福祉のイメージを広げている段階です。3年間をかけて、自分が将来どんな分野で頑張りたいのか、じっくり考えていきたいです。

また、勉強以外にも様々な活動への参加や、交友関係を通して、大学生活を楽しんでみたいです。今はサークルの活動に参加してみたり、アルバイトも始めました。充実した3年間を送れるよう、頑張っていきたいと思っています。



はてなを見つける楽しさ



大学院：健康科学
研究科1年
羽鳥 由香

私は今年、青森県立保健大学看護学科を卒業した。私が看護を目指したきっかけは祖母の入院だった。概論を始めとする科学的根拠に基づく看護支援等を学んだ。実習先で患者さんと向き合うことができず悔しくて泣いた。友人と助け合いよく遊んだ。一人暮らしにも慣れ精神的にも強くなった。在学中に祖母が他界し、落ち込んだ時期もあった。

そして学部4年目、私は卒業研究を始めた。テーマは高血圧への食餌の影響、高血圧モデルラットを用いた実験研究だった。開始当初は毎日が手探りだった。ネズミが怖いなどと悠長な事を言っている余裕はなかった。高血圧とは何だろうと考えて初めて疑問が生まれた。背景、原因、誰がどんな説を唱えているのか、高血圧に関して今どのような研究が行われているのか、それらの研究によって何がどこまで明らかにされたのかを調べた。卒業研究を通して、新たな事へ挑戦する楽しさと、データを深く追求する中で得られる知識と発見に、私は喜びを感じた。そして新しい事への挑戦と更なる知識と発見とを求めて大学院に入学した。

大学院での目的は沢山あるが、研究の基礎を固め、継続していく。他人の意見を十分吟味した上で流されることない自分の考え方の確立。科学的根拠に基づいて自分の意見を人に伝える説明能力と「はてな」を見つける洞察力とを養うことだ。

将来の目標は、看護職として業務を行う際、科学的根拠を背景にできること。対象者が抱える問題への対処方法を取捨選択し最善のものを提供したいと考えている。

最後に、両親と、担当教員を始めとする周囲の理解と協力が得られたからこそ、今の自分がここにいる。感謝の心を常に持っていたい。

新しい生活のスタート



社会福祉学科
2年
小林 亜梨沙

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。受験という苦しく大きな壁を乗り越え、今この青森県立保健大学で新しい生活をスタートさせた気分はいかがですか？まだまだ大学生活も始まったばかりで、夢や希望で胸をふくらませている反面、不安なこともたくさんあるのではないのでしょうか。

1年前、皆さんと同じように新しい生活をスタートさせた私は、初めて親元を離れ一人暮らしをすることへの開放感や楽しみ、そして自分の夢に向かってこれから一生懸命頑張ろうという気持ちでいっぱいでした。何もかもが新鮮で、これからどんな大学生活が待っているのだろうという期待で胸がいっぱいだったことを今もよく覚えています。その反面、友達とうまくやっていくことができるのだろうか、大学の勉強についていけなかったらどうしようという悩みや不安もたくさんありました。しかし思い切ってその気持ちを友達に打ち明けてみると、自分だけでなく周りの友達も同じことで悩んだり不安になったりしていることがわかりました。同じ夢を目指し、それに向かって動き出そうとしている仲間だからこそ、わかり合える部分がたくさんあるのだと思います。大学というのは勉強するだけの場所ではなく、様々な場面でたくさんの人達と関わり合うことから、自分自身を成長させていくための一つの社会なのではないかと思います。大学は今までの高校生活とは違い、大学祭やサークル活動など楽しいことがたくさんあります。また、実習も始まったりと学業の面でも本格的になってきて、大変なこともたくさんあるかもしれません。それらを全て含め、皆さんが充実した大学生活を送ることができるように、同じ大学の仲間として困ったときは助け合いながら一緒に頑張っていきましょう。

新入生のみなさんへ

理学療法学科
3年

四ッ谷 隆輔



新入生の皆さんご入学おめでとうございます。本学での生活にも慣れたでしょうか？これから当地では木々の緑が濃くなり、いよいよ観光シーズンを迎えます。そして本学においても、日々の授業内容が深まり、それを補うために主体的な取り組みが必要となってきます。更に学内及び学外実習も始まります。入学前の大学生活のイメージとは異なり、一日一日が早く過ぎ去ることを感じるでしょう。その中で、皆さんが少しでも充実した大学生活を送ることができるように私の経験から2つアドバイスしてみたいと思います。

まず一つめは、時間の管理についてです。先程も言ったように、これからは授業や実習の課題、試験などといったものに追われるような日々が始まります。あまりの忙しさに時々投げ出してしまいたくなることも多々あります。そんなとき、友人との語らいや小旅行などで遊ぶことはよい気分転換になると思います。徒に長時間課題に取り組むよりは、休憩する時間を上手につくり、けじめをつけて取り組んだ方が成果をあげやすく、時間を有効に使えることができます。

次に学年や学科を超えた信頼しあえる友人を多くつくるのが重要です。課題や日々の忙しさにくじけそうなとき、共に取り組んだり支えになってくれたりするのには友人です。私が体調を崩したときに友人の物心両面の支えは本当に助かりました。充実した大学生活を送る上で共に助け合い、信頼しあえる友人を持つことは大きな財産となります。皆さんも友人を多くつくり大事にして下さい。

困難に陥ったとき、考えが煮詰まってしまったときなどは近くにいる先輩方に尋ねてみてください。親身になって考えてくれ、良きアドバイスをしてくれることでしょう。この他にも皆さんの大学生活を支援してくれる手立てはいくつもありますので、それらを有効に活用してください。

新入生の皆さんへ

看護学科
4年

岩元 真悟



新入生の皆さんご入学おめでとうございます。入学してから数ヶ月経ちましたが大学での生活に慣れてきたでしょうか。

私は3期生として入学してきたので当時はまだ4年生がいない状況で学生の数も現在ほど多くはありませんでした。設備やシステムも整っていませんでしたし、実習へ行っても私たちの大学と実習先との連携の弱さを感じることもありました。それも全てまだこの大学が新しかったためだと思います。新しさには未熟が伴いますが、それは学生や教員、事務の方、その他様々な方々との連携を図ることで乗り越えられることだと思い、そこに魅力を感じました。すでにあるレールの上に乗って進むことよりも自分たちで道を切り開いて進んでいきたい、そんな気持ちで私はこの大学を選んで入学してきました。

あれから3年経ち、この原稿を書くにあたり今までを振り返ってみると大学が確実に成長してきているのを感じます。それはやはり現在臨床で活躍されている先輩方が試行錯誤しながらつくり上げてきたものを私たち在校生が受け継いでいるからだと思います。まだ実感がわかないかもしれませんが、皆さんはその新たな担い手の一人です。これから大学がさらに成長していくかどうかは皆さんの手にゆだねられていると思います。

最後に、大学生活を通して各専門職としては勿論、皆さんには一人の人間としても成長して欲しいと思います。皆さんは将来人を相手にする職業につくこととなりますが、その際自分の人間性が問われる場面に多々遭遇すると思います。学長先生がおっしゃっているヒューマンケアを実践できる人になれるようこれからの大学生活を大切に過ごしてください。

出会いのスタート —つくろう友だち！ 広げよう！ 輪・話・和—

新入生合宿研修実行委員会委員長 小山 敦代

〈合宿研修の計画〉

新入生が本学の学生としてスムーズなスタートをきり、よりよい大学生活をおくることを目的に実施されている1泊2日の新入生合宿研修も6回目となりました。

実行委員会が2月に立ち上がり、学生部長、3学科及び人間総合科学科目から教員各3名、学生自治会役員1名、教務学生課担当職員による委員でもって短期間の中で準備をすすめてまいりました。基本的に過去5年間の蓄積と評価を踏襲しながら次の6点を工夫・改善点としました。1点目は、合宿研修のねらいをわかりやすく親しみやすくするために「出会いのスタート—つくろう友だち！ 広げよう！ 輪・話・和—」とテーマを掲げたことです。目標は、①本学の教育全般について理解し、学生生活へのスムーズな適応を図る、②学生間の相互交流を図り友だちの輪を広げることにより、実りある学生生活の土壌作りを行う、③学生と教職員との交流を図ることにより、信頼関係を深め、よりよい教育の実践を行うための環境作りを行う、であり、テーマの中にその主旨をこめました。2点目は、昨年度の評価から編入生の研修1日目参加、3点目は、「禁煙セミナー」を学生主体に、4点目は、専門職へのいざない&相談コーナーに人間総合・上級生コーナーの設置と場所の検討、5点目は、安全生活のため「マルチ商法等への対処」についてプログラム追加、6点目はアンケート項目・内容の見直し等です。そして、学生自治会長を通して全般的に学生の意見を取り入れたことが今年度の特徴としたところです。



イングリッシュ・プレゼンテーション

〈研修の実施〉

春の訪れを肌で感じる自然豊かな雲谷山麓の青森県青年の家において、新入生166名、編入生13

名、上級生40名、教職員86名の参加のもと実施となりました。主なプログラムは次のとおりです。

【第1日目】 4月9日(金)

時間	内 容	備考
13:30	大学出発	
14:20	オリエンテーション、あいさつ等	実行委員長、学長、自治会長
15:00	人間総合科学科目（イングリッシュ・プレゼンテーション）	
15:30	ふれあいタイム	
15:40	禁煙セミナー	看護3年 山田修平他
16:20	学科別オリエンテーション	
17:30	ベッドメイキング説明、シーツ配布	
17:45	夕食	
18:45	専門職へのいざない&相談コーナー	人間総合、三学科、上級生
19:45	フリータイム	20:00 帰宅教員バス
21:00	室長打ち合わせ	
22:30	消灯、就寝	

【第2日目】 4月10日(土)

時間	内 容	備考
6:30	起床、清掃	
7:45	朝食	
8:45	退所確認	
9:00	マルチ商法等への対処、不審者への対策	消費生活センター、事務局
9:35	レクリエーション大会、自治会、サークル紹介	
11:45	フリータイム	
12:00	青年の家出発	
12:30	青森県立保健大学到着	



専門職へのいざない&相談コーナー

実施にあたり、何より大きな力の発揮は2～4年の上級生達でした。テーマの垂れ幕作成、バスへの乗降車点呼、プログラム運営、レクリエーション大会、安全確認など、教職員の助言を受けながらも全てにおいて新入生を暖かく迎え入れる心配りと主体的に活動する姿は頼もしい限りで、新入生にとって何より身近なモデル的存在でした。

＜実施後の評価＞

研修終了後のアンケート結果から新入生と編入生の反応を見てみますと、5段階評価（良い、や



看護学科



社会福祉学科



理学療法学科



学科別オリエンテーション

や良い、どちらでもない、やや良くない、良くない)で、5・4段階が一番多かったのは、「禁煙セミナー」で96.9%でした。“面白く楽しく、かつ分かりやすかった”“学生が行ったので親近感がわいた”と大変好評でした。次いで、「レクリエーション大会」が90.0%で、“他学科と交流できた”“友達も増えたし、初対面の人とも熱中できてすごく楽しかった”“負けても楽しかった”等でした。「人間総合(イングリッシュコミュニケーション)」は89.8%で、“英語で話すことに抵抗があったが吹っ飛んだ”“英語を身近に感じた”等の意見がありました。「専門職へのいざない&相談コーナー」「学科別オリエンテーション」は82.5%で、“学科の先生が大体わかるようになった”“チュータの先生と話しができてよかった”“編入生の先輩の話しが聞きたかった”“疑問に思っていたことが聞いてよかった”“履修について分からないところを詳しく聞くことができた”等でした。「マルチ商法について」は、5・4段階がやや少なかったものの、“今後のためになった”“だまされないようにする”“実例を教えても

らって恐さを知れた”等の意見がありました。また、合宿研修全般についての5段階評価（そう思う、ややそう思う、どちらでもない、ややそう思わない、そう思わない）では、5・4段階が「友人ができた」94.5%、「来年も実施した方が良い」94.6%、「学生同士交流が持てた」92.4%でした。次いで「楽しい研修だった」89.8%、「この研修は役立った」88.4%、「有意義な研修だった」84.2%、「学生生活への不安が減った」79.5%、「他学科の学生と交流が持てた」70.2%、「教員と交流が持てた」66.5%、「来年の研修会に協力したい」62.3%の順でした。「来年の研修会に協力したい」と62.3%の回答があり、次年度においても編入生を含めた上級生の活躍を期待したいところです。「宿泊について」は、「必要」が69.8%、「不必要」が13.9%、「不明」が16.3%であり、“宿泊すると交流が深まる”“部屋の人と仲良



夕食のひととき

くなれる”“泊らなくても交流は深められる”“泊りたくない人もいる”、といった意見でした。

〈おわりに〉

こうした大変良い反応でもって平成16年度の新入生合宿研修を無事に終了することができましたことは、ひとえに5年間の蓄積と教職員ならびに上級生のお陰と実行委員を代表して心からお礼申し上げます。加えて、一般的に大学の学生自治会活動の低調と言われる昨今ですが、本学では合宿研修においても学生の主体的取組みや縦横の連携、輪つくりの風土や伝統が着実に形成されていることに喜びと頼もしさを感じます。今年度の新入生もまた、出会いのスタートを機により良い大学生生活を送れることを念じます。



専門職へのいざないコーナー



英語の早口言葉！



ゲームつな引き

学生による禁煙セミナー～発癌物質入りのジュース～

看護学科3年 山田 修平

去年の禁煙セミナーは、教授の大関先生が行ったのですが、今年は先生たちの意向で「対象の年齢に近い学生の中から代表を出してやる」ということになり、看護学科3年の私、山田修平に白羽の矢が立ったのであります。私は先生方が私に依頼した意図が、今までに無い健康教育を行うことであると、自分勝手に判断し、文字通り今までにない他では聞けない話をしようと考えました。

テーマとしては「喫煙の愚かさを知ろう」という、禁煙セミナーの基本というか、喫煙の愚かさを知ることで対象者の禁煙を促そうという平凡なものを設定しました。テーマまで他では聞いたことも無いものにすると、本当に何を伝えたいかわからなくなってしまうと考えたのです。ただ、伝え方はかなり工夫しました。

普通ですと、喫煙の愚かさを伝えるためには、「喫煙はこんなに体に悪いんですよー、怖いですよね？」という展開になると思うのですが、それでは面白くないと考えました。相手は高校を卒業した新大学生ですから、このような話は今まで、授業やテレビなどで聞いたことがあるはずですが。内容も平凡では、印象に残りません。そこで私は内容を変えてみました。例えば、タバコには発癌物質が含まれていて、喫煙は癌という病気を誘発するリスクファクターであることはよく知られて

います。そんな有名な話なのに、そのことを知っているのに、なぜ人は喫煙するのでしょうか。もしもここに果肉入りのオレンジジュースと、発癌物質入りのオレンジジュースがあったとしたら、みなさんはどっちを飲むでしょう。もちろん果肉入りですよ？発癌物質を体内に取り込めば良くないということは今や周知の事実であり、誰もが恐れている物質です。そして前述したとおり、タバコにその発癌物質が含まれているということも、周知の事実です。こう考えると、喫煙ということは、先ほどの二択の場面で、発癌物質入りのオレンジジュースを選ぶのと同じことです。タバコに発癌物質が含まれていることは、何度も言ったとおり、今や誰でも知っている事実です。そのことを知ってて、これからタバコを吸い始めるというのはとても愚かなことじゃないでしょうか？

多少強引だったかもしれませんが、このような変わった言い方をすることで印象に残る講義ができると考えたのです。喫煙が愚かな行為であるということが、皆の頭に残ることが最も重要と考えたのです。実際に今になっても新入生から、この時のセミナーの話がされています。このまま新入生の頭にこびり付いて、新入生が20歳になった時に、喫煙という愚かな行為を選ぶことが無いことを心から祈っています。



卒業証書学位記授与式について

本学第2期生の卒業証書学位記授与式が、春風薫る平成16年3月17日に執り行われました。

看護学科104名、理学療法学科18名、社会福祉学科38名の、合計160名に対し、新道幸恵学長から学位記並びに卒業証書が授与されました。

新道学長からは「保健医療福祉の専門職として、社会の期待や保健医療福祉の現場の期待に充分応えられる能力を修得したことに自信を持ち、人間として、また専門職として、問題に誠実に対応していきましょう。」と式辞が述べられました。

また、設置者である三村申吾青森県知事からも「困難や挫折にあっても、チャレンジ精神を持ってそれぞれの夢に進んで欲しい。」と激励されました。続いて、県看護協会や県理学療法士会、県社会福祉士会の各団体や代表者から、卒業にあたってのお祝いのご挨拶が贈られました。

在校生からは、社会福祉学科3年生の大友隆幸さんが「先輩方が積み上げてきたものを引き継ぎ、発展させるよう頑張ります。」と送辞が述べられ、これに対し、第2期生を代表して理学療法学科の矢吹勇太さんから、「青森県立保健大学で学んだことを誇りとし、自分の行動に対する責任を自覚して、地域の人々の健康や福祉の向上に貢献していきたい。」と、卒業にあたっての決意が述べられました。

最後に後援会長から卒業生に記念品の目録が、そして卒業生から新道学長に卒業記念品の目録が、それぞれ手渡されました。

式典の後、春風の中、メールアドレスを交換しあったり、卒業後の連絡先を交換するなどして、別れを惜しんでいました。



第2期生卒業記念パーティ

卒業関連実行委員会(看護学科4年) 松田 友美



第2回卒業記念パーティは、青森グランドホテルで行われました。昨年同様、3・4年生による学生主体の卒業関連事業実行委員会において企画・運営されたものです。実習・国家試験勉強等の合間をぬって、協力しながら準備を進めてきただけに、中心となって活動していた4年生の開催に至った喜びは格別のものであったようです。3学科全員が集える最後の場であるこの記念パーティは、卒業生にとってとても思い出が強いものであろうと思われます。そのことを強く物語っているのが女子学生たちの華やかな衣装で、そこにいるだけでわくわくしてしまう光景でした。

卒業パーティには学生の他、お世話になった本学の先生方・職員の皆様、実習指導者の方々もいらして下さり、あちらこちらで大笑いしたり、思い出を語ってしみりしている様子を見ることができました。卒業生はそれぞれの場でお祝いや将来への励ましのお言葉をいただいていたようで、新たな場へふみ出す決意を固めていたようにも見えました。

4年生にとってこのパーティは卒業証書学位授与式と共に大学生生活締めくくりの行事となります。その卒業生の表情からは実習や卒業研究、国家試験など4年間の様々な苦しみを乗り越え、これから新しい道を進んでいく力強さをひしひしと感じました。この大学で学ぶことができた誇りを胸に、それぞれの道で活躍するであろう卒業生の未来の姿を垣間見ることができる卒業記念パーティでした。

「慣れ」のち時々「一期一会」

成田 彰宏
(看護学科2期生)



大学生活の中で印象深いのが入学式だ。男子校だった自分が、女子の割合がほとんど占める看護学科への入学は緊張の嵐だった。席についても左右は見れず、硬直していた事が今では嘘のようだ。4年も経つと男女の枠はすっかりなくなっていった。全く『慣れ』とは凄い事だと思う。『慣れ』という習慣、いわゆる『継続は力なり』である。これは、勉強だけではなく、全ての物事に繋がる武器だと思う。現在、野辺地町の保健師として働いているが、4月当初は仕事の仕方がわからず四苦八苦していたが、ようやく仕事にも慣れ、かかってきた電話相談にも抵抗なく出ることができるようになった。

また、在校生に伝えたいのは『人との出会いは財産であること』である。先生方、医療関係者、バイト先、患者さん、友達、etc.、との出会いは、様々なモノ（相手の生き方、考え方など）に触れ、自己を成長させるチャンスである。出会っても、その出会いをおろそかにするのは、人生の宝物をひとつ失ったことに匹敵すると思う。二度とは戻らない時間を大切に、『一期一会』というモノをいつも心の中に留めて、後悔のないように大学生活を送ってください。

大学生活から得たもの

浅田 恵
(理学療法学科2期生)



3月に卒業し、臨床に出て早いものでもう2ヶ月が過ぎました。実習とは違って仕事として迎えた臨床現場では、つまづくことも多く、何より逃げ道がありません。実習中は大学の先生の助けがあったり、ある期間で終わることがわかっていた分がんばれたところも多かったです。しかし、仕事としてやっていく以上は、ある期間で終わるわけでもなく、自分の問題は自分で解決していかなければなりません。問題解決にあたって役立つのは、職場の先輩の助けももちろんありますが、一

番は『大学の友達・先生の助言』と『精神的な強さ』だと私は感じています。どちらも4年間の大学生活から得られたもので、今の私には何より強い味方です。

大学での4年間は、一言でいえば楽しかったですが、授業と実習、山のようなレポートとテスト、そして国家試験と正直辛いことも多かったです。しかし、この辛いことがあったからこそ、相談することで先生とうち解けられたり、協力しあいながら課題をこなすことで学科の友達と強く結束できました。また、課題をこなすにあたって、みんな協力するものの、最後は自分でやるしかないんだという厳しさも十分身につきました。

大学で知識・技術を学ぶことは一番大切なことですが、戦いぬく強さと戦うための武器を得ることも大事なことで私は思っています。有意義に4年間を過ごしてください。

自分の将来を見据えた4年間

菊池 陽子
(社会福祉学科2期生)



大学を卒業し、社会人になってから2ヶ月が経ちました。新生生の皆様も少しずつ大学に慣れてきた頃だと思います。私の大学生活を振り返って感じることは、4年間は本当に短く、それでいて成すべきこと、自分に残されたものはたくさんあったということです。最も大きなこととしては、卒業後、地元に戻らず県外で就職することを決めたことです。福祉を志して大学に入学し、一人暮らしを始めて自分で自分の時間や生活を管理し、行動するうちに、何をしながらどのように生活したいのか、具体的に見えてきた気がします。そして今、県外の社会福祉法人で働いていますが、大学で得た知識と技術を福祉の現場で実用化することの難しさ、法人という組織の一部として働くことの責任の重さを実感しながらも、自分の望む場所で4年間学んできたことを生かしながら働くことに喜びを感じています。今の自分があるのは、大学生活の中で出会った先生方、友人の力添え、そして何より家族の支えがあったからであり、心から感謝しています。大学生活は自分の将来を具体的に決める大切な時期です。後輩の皆様が充実した大学生活を送ることができるよう、心から祈っています。

3月17日、本学第2期生の卒業式が行われ、卒業生160名のうちほとんどが保健・医療・社会福祉分野の専門職として社会に巣立っていきました。第2期生も学生一人一人が就職活動に真剣に取り組み、第1期生に引きつぎ所期の成果を得られたことは評価できるものと思います。

第2期生の就職活動は、第1期生と同様に就職対策専門部会を中心に全学体制で取り組み、次のような各種の支援事業を行いました。

〈〈平成15年度の主な就職対策支援事業〉〉

- 1 県内外の病院・社会福祉施設等に対する就職用パンフレット及び求人票の配布
- 2 学生と事業所人事担当者との直接面談を目的とした就職合同説明会の開催
- 3 模擬面接・小論文添削指導の実施
- 4 公務員試験対策講座を本学内に開設

以上の事業を中心に就職対策を展開しましたが、最終的には以下の結果を残すことができました。

【第2期生の就職率】

単位：人、%

学 科	卒業者数	進学者数	就職希望者	就 職 者 〔うち、県内就職者〕	就 職 率 ()は前年実績
看護学科	104	4	99	97〔46〕	98.0(100.0)
理学療法学科	18	3	15	15〔5〕	100.0(100.0)
社会福祉学科	38	0	36	33〔19〕	91.7(94.1)
合 計	160	7	150	145〔70〕	96.7(98.6)

第2期生の進学者数は7名であり、主な進学先は青森県立保健大学大学院・群馬大学大学院等となっており、また第2期生全体の就職率96.7%は第1期生に比べ若干低下しているものの、厳しい就職状況の中にあっては、評価できる数字であると考えております。

なお、第1期、第2期生の就職後の状況につきましては求人関係の方々のお話から、業務に対する姿勢、意欲などにかかなり高い評価を得ており、意を強くしているところです。

さて、現在は既にスタートしている第3期生の就職対策に取り組んでいるところです。第3期生は先輩卒業生の就職活動を参考に確かな目標を持って就職活動に取り組んでいます。

大学としてもこれまでの2期にわたる就職対策を検証したうえで、より実効性のある就職対策を第3期生とともに進めていきます。

学生自治会紹介



自治会長 湖東 里美 (社会福祉学科3年)

昨年度行われた選挙によって、現在の自治会役員が結成されました。ここで、新しくなった自治会メンバーを役職別に紹介したいと思います。まず、自治副会長は足立佳世さん(理学療法学科3年)、千葉瞳さん(社会福祉学科3年)、是川幸恵さん(社会福祉学科2年)、書記は山崎聡美さん(社会福祉学科3年)、澤口智美さん(社会福祉学科2年)、会計は種市寛子さん(社会福祉学科3年)、山本美沙さん(看護学科2年)、庶務は田中晃子さん(社会福祉学科3年)、佐々木萌さん(看護学科2年)です。私を含めて10人の自治会メンバーと自治会担当の千葉多佳子先生を中心に今年度の自治会活動を進めていくので、みなさんよろしくお願ひします。

私たちは、学生と学校の橋渡しをしていきたいと考えています。そのため、学生のみなさんの意見を広く募り、その意見を大学側に伝え学生生活をより良いものにするため活動しています。全員が自治会初心者で、未熟な面は多々あります。しかし、これから行われるスポーツ大会や大学祭にむけて、自治会だけではなく学生の意見も取り入れ学校行事を盛り上げていきたいと考えています。少しでもみなさんのお役にたてるようにがんばっていききたいです。

【コパンサークル】

看護学科2年 佐藤 舞 (顧問：小山敦代教授)

コパンサークルは、去年、私の2期上の、つまりは、現在4年生の看護学科の先輩たちが立ち上げたサークルです。サークルの目的としては、受け売りではありますが、「3学科の交流を図り、いろんなことをみんなで体験して、共有すること」です。3学科の交流が少ないからこそ、みんなで交流を持つ場として提供することができたらいいなと思っています。今はまだほとんどが看護学科の女子で成り立ってしまっているのですが、理学療法学科や社会福祉学科の方でも、ちょこっとでも興味を持った方に気軽に参加していただけたらいいなと思っています。もちろん看護学科の方も大歓迎です。

また、活動については、今のところ、お菓子作りや服飾に限定されつつありますが、シルバーアクセサリやビーズのアクセサリなどそれぞれみんなでわいわい楽しく作ったりすることができるものならなんでもよかったです。だから、もし何か作りたいものがあつたら気軽に言ってくれるといいなと思います。

最後に、活動回数自体は少ないですが、もっといろんな人と楽しく活動ができればいいなと思います。



[ソフトボールサークル]



社会福祉学科2年 窪田 浩明 (顧問：八戸 宏講師)

私たちソフトボールサークルは去年の冬に発足したばかりの新しいサークルです。4月から本格的に活動を開始しています。

本サークルの目標は「ソフトボールを楽しむ」です。しかし、発足当初は人数が集まらず活動することも出来ないという状況でした。今は新入生も10人入り、人数も集まるようになってやっと「楽しむ」環境が整ってきました。週1回の活動ですが、全員が楽しみながら汗を流しています。

実はサークルのほとんどの人が素人です。学校の体育でしかやった事がない、そんな素人の集まりですが、ソフトボール経験者の話を聞きながら真剣に技術向上を目指しています。今では紅白戦をこなせるレベルまで上達しています。最初は全然上手くなくて構いません。活動を重ねていくうちに必ず上達します。ソフトボールを好きになっていきます。

この記事を読んで少しでも興味を持ってくれた人がいたら、一度グラウンドまで遊びに来て下さい。道具はあるのでジャージ姿で来てもらえれば大丈夫です。大歓迎です。素人も経験者も全員が楽しめる内容を考えていきます。是非、1回見に来て下さい。もっとソフトボールが好きな人が増えればいいな、と思いながら毎週活動しています。



[ソフトテニスサークル]



看護学科2年 田頭 賢治 (顧問：藤本真記子講師)

ソフトテニスサークルは去年できたまだ新しいサークルです。現在は1・2年生40名ほどで月曜～金曜の放課後に活動しています。本学にはオムニーコート(人工芝のコート)が4面もあり、更にナイターの照明器具まで備わっています。授業のない時に仲間同士で集まってワイワイ楽しく試合をしています。今年度からは一般の大会にも出場を考えています。青森市内の大会や県内の他の大学との交流試合などを計画に入れており、昨年よりも一段とサークル活動が活発になっています。

私たちのサークルでは「やったことのある人も、ない人もみんな、仲良く、楽しく、美しく!」を目標に、技術の差や男女の性別は関係なく、みんなが笑顔で汗を流し、学年間の枠を超えて楽しくスポーツができるサークルを目指しています。ソフトテニスは初心者でも慣れてくればとても簡単に遊べるおきらくなスポーツですよ。だって大学っていえばテニスでしょ!

しかし、サークル活動に熱中しすぎて運動バカにならないように勉強もがんばっていきたいと思います。

唯一の悩みといえば、去年にできたばかりのサークルなのでラケットやボールといった必要最低限の物品が不足しているということです。毎年助成される活動助成金は限りがありますが、本学関係者の方々にはもう少し考慮して戴きたいとソフトテニスサークル会員一同願っています。

地域と大学の共存・発展を目指して

健康科学教育センター長 伊藤 日出男

教育センターでは平成16年度の事業として、研修科関係では昨年度と同様に県内の保健医療福祉専門職に対する生涯学習の支援を中心に地域に開かれた大学として内容の充実を図ります。具体的には、教員から募集した研修企画にそった各種研修会を開催します(参加費は無料)。昨年度は「看護職のための家族看護研修(基礎コース)」、「呼吸管理看護支援モデル研修会」、「看護職のための家族看護研修(実践コース—家族システム看護の実践—)」、「看護職のためのトランスファーテクニック研修会“合気道スタイル・トランスファーをマスターしよう”」、「介護老人保健施設等で働く看護職に対する応急処置・救命処置研修会」、「理学療法臨床実習指導者研修」の6つの研修が行われ、いずれも好評でした。

また、昨年度は教員の研究成果を県民向けに分かりやすい表現にかえた、「健康と生活シリーズ」と題するブックレットを出版しました。すなわち、「転ばないようにするために～転倒予防教室～」、「青森県の健康を科学する～生活習慣病の予防をめざして～」、「雪と地震にそなえて～在宅高齢・障害者のための積雪・災害対策の手引き～」の3種類を関係機関に送付し活用を図ってもらいました。今年度も年間3ないし4種類を発行する予定です。さらに、「第3回ケアマネジメントフォーラム in 青森」を開催し、関係者多数の参加を得て活発な討議を行うことができました。教員に対しては、今年度も昨年同様に教材開発やテキスト作成、教育方法の工夫など教育面での研究を助成します。

国際科関係の平成16年度事業としては、外国の大学等との交流及び共同研究の推進、韓国・仁済大学校との理学療法学生の交流推進、国際的な講演会・公開講座等の開催、海外からの研修生・視察等の受け入れ、また県内高校との英語教育に関する交流会開催や英語能力テスト(TOEIC)開催への協力などを予定しています。

昨年10月に開催した「女性の権利と日本国憲法」と題するベアテ シロタ ゴードン氏の特別講演は多数の聴衆を魅了した素晴らしい講演でした。その他に中国の護理(看護)協会からの見学やアフリカから保健医療福祉グループの視察、それに理学療法学科ではパラグアイから理学療法士1名を1年間お世話しました。今年は5月早々に米国のベレノバ大学から来年度に予定された看護大学院生交流のため視察に見えています。また、今年4月から1年間の予定で中国の看護師さんが研修生として在学中です。

その他、昨年から教育センターが中心となって、2つのプロジェクトチームを発足させました。1つは下北地方の保健医療福祉体制支援のためのプロジェクトで、現在むつりハピリテーション病院を中心に下北地域の保健医療福祉職員の現任教育を支援しています。もう1つは看護職員専門分野研修事業などを開催できる研修教育機関としての申請準備プロジェクトで、平成17年の認可を目指して鋭意準備をすすめています。

今年も教育センター教職員が一丸となって地域貢献と国際交流のために頑張りますので、ご協力を宜しくお願いいたします。

研/修/生/紹/介……………周 馨麗 (シュウケイレイ) 中国ハルピン市出身



大家好!(皆さんこんにちは!) 私は周馨麗と申します。今年の4月から、第27期中笹川医学研究者として、この大学で1年間の研修をしています。専門は看護学です。中国では、心臓外科病棟で看護師をしていました。自分の専門について勉強したいと思い、青森へ来ました。中村恵子先生のおかげで、私はいつも楽しいです。

実は、中国のハルピン市は青森よりもっと寒いですから、冬の間は楽に感じると思っています。皆さんと一緒に生活したり勉強したりして、私はもっと頑張りたいと思います。

県民の健康増進に寄与する研究をめざしています 健康科学研究センター長 嵯峨井 勝

健康科学研究センターは、本学設立の理念である研究活動を通じて地域社会との連携を深めるとともに、研究成果の県民への還元を目的として、以下の活動を行っています。

【1】健康寿命アッププロジェクト研究（官学連携研究）

青森県民の平均寿命が男女共に全国最下位にある現状を改善するために、高血圧、高脂血症、糖尿病、肥満者などを対象に、市町村と当センターが連携して、下記の①から④の検診調査・研究、健康教室の開催、健康要因解析調査などを行っています。

- ① 減塩研究班：青森県の地域住民の尿中食塩の測定と減塩生活指導教室の開催
- ② 食生活研究班：地域住民の血液検査、血液サラサラ度や動脈硬化度の測定、食事調査などをもとに食を中心とする生活習慣改善のための健康教室の開催



血液サラサラ度測定



動脈硬化度測定

- ③ 運動能力研究班：②班と共同で、住民の持久力テスト、筋量測定等と運動指導教室開催
- ④ 健康要因研究班：健康と寿命とに係わるライフスタイル要因解析（食生活、喫煙等が問題）

【2】雪国の研究

青森県のような積雪寒冷地における在宅高齢者や障害者に冬期間でも良質なケアを提供するために、テレビ電話などを含めたより高度な遠隔ケアシステムの構築を進めています。

【3】実用技術開発研究

保健・医療・福祉分野における実用的な技術やアイデアの中から、将来産業化が見込まれる研究を民間企業などと共同で進めています。現在は以下の2課題を進めています。

- ① 高齢者・障害者に使いやすい椅子の開発（残存機能を生かした、自立的生活支援）
- ② ガマズミ果実搾汁残渣から生活習慣病予防に効果のあるサプリメントの開発

【4】健康科学特別研究

本学の教員と病院、福祉施設等の現場専門職の方が共同して、現場の問題解決に役立つ研究（地域研究）、保健・医療・福祉の行政課題の解決に寄与する研究、若手研究者を育成する研究、学術的に意義の高い課題について行う研究などを行っています。地域研究については現場の方からの提案も歓迎します。

【5】保健・医療・福祉に関する学術研究集会の開催（9月17日金）

当センターでは、県内の保健・医療・福祉専門職者の能力向上と連携強化などを目的に、9月17日（金）に本学において第2回学術研究集会を開きます。関連の専門職者のご参加をお待ちしています。なお、演題申し込みは6月30日、要旨締め切りは7月21日です。

TOPICS

「コレステロールは本当に心臓疾患の主要因子か」

これまで、高コレステロール血症は心臓疾患の主要リスク因子と考えられ、コレステロールを下げる対策が取られてきました。今回、当研究センターの「健康寿命アップ研究」では、総コレステロール値だけでなく、年齢、性、血圧、高血圧の治療の有無、喫煙の有無、糖尿病の有無、善玉コレステロール値等をすべて加味して計算する「冠動脈10年リスク値」（フラミンガム研究から提案された値）を、上北町と小泊村住民1,500人の検査値を用いて重回帰分析してみました。

その結果、10年以内に心疾患で死亡する確率としての冠動脈10年リスク値は総コレステロールとは関連が非常に弱く、血圧値、喫煙、善玉コレステロール値との関連が非常に強いことが分かり、とりわけ喫煙の寄与が高いことが分かりました。また、このリスク値は男性で極めて高く、なぜ男性の平均寿命が女性より7～8歳も低いかをよく説明する結果でした。また、この10年リスクは心疾患のリスク予測のみならず、脳内出血や脳梗塞などの脳血管疾患のリスク予測にも応用できる可能性があることが示唆され、さらに研究を深める予定です。

インド国西ベンガル州の開発

社会福祉学科助教授 千葉たか子

この数年、ベンガルの農村をフィールドに、地域開発の研究・交流活動を行い、年に3回の割合で現地を訪問している。

私が特に関わっているのが保育園教育である。マドハプールとサルバナンドプルの二つの保育園は、ほぼ同時に開園されたが、3年後の現在、それらの発展状況に、徐々に差がついてきている。人々はその理由を地理的な差と考えているが、興味深い考察である。今後も、両保育園の発展の観察を続けつつ、発展の要因・条件を考えていきたい。

女性を対象として開催している編物教室も、当初の目標につながる路線に軌道修正され、各集落のリーダーとなる女性たち4名が育ってきている。2004年の夏には、彼女らによる編物教室開催の可能性が出て来た。女性の収入創出につながることを最終目的としたプロジェクトを成功させるための多くの示唆をこの試みから学んでいる。

コルカタでは、遠隔地における識字教育を行っているNGO・Chitrabaniと、家庭内暴力から逃れて来た女性のための技術訓練を行っているNGO・Ankur Kalaを訪問できた。コルカタでは多くのNGOの活動を見ることができる。若い世代の人々に是非、一度、途上国を訪問して欲しいとの思いを強くした。



保育園の管理・運営について人々と話し合う

ベンガル州の子どもたち

看護学科4年 菅原江美子

2003年の8月、千葉先生に同行し、先生の支援しているベンガル州の農村にある保育園2ヶ所を訪問しました。

保育園では身体測定の実施の際、呼吸音の聴取をさせてもらいました。呼吸音については、学生の私ができるほどの異常はみられませんでした。ただ、子どもたちの体格は貧弱で、日本の子どもの基準でみるとどの子も栄養失調にあたると思います。

保育園の先生たちは、勉強を教えたり遊びを見守ったりすることは出来ますが、健康管理が出来るようには思えませんでした。水銀体温計は常備していますが、体温を測るべき状態、何分で測定できるか、平熱は何度か、といったことを知らないようでした。水銀体温計の目盛りを読むのも苦手そうです。保育園の先生が子どもたちの健康状態を把握できるようにする必要があると感じました。

子どもたちはみんな元気いっぱい、新しい遊びをどんどん覚えます。前回の訪問で教わった“糸巻き”の歌遊びを覚えていて、「♪い～と～まきまき」とちゃんと歌いながら披露してくれました。年長の子は準備をしたり小さい子の面倒をみたりしていました。子どもでも、家庭や地域で役割を持っています。ほんのひとまわり小さい子を抱っこする姿は今の日本ではあまり見られない光景ではないでしょうか。

この研修旅行は、私にとって視野を広げるとともに、自分というものを改めて考える機会となりました。



子どもたちの心音を聞く

進学相談会を8会場で開催

進学相談会は、本学の教育内容や取得できる資格、入試情報、就職実績、学生生活など、大学選択に関する情報を本学の教員から直接聞ける機会を設けるために、毎年実施しています。

今年も県内県外合わせて8箇所で開催し、高校生や進路指導担当教員、父兄など、多くの方が相談に訪れました。

平成16年度実施状況

(人)

開催日	場所	相談者数	参加教員
5/19(水)	八戸市	63 (70)	6
5/20(木)	盛岡市	43 (38)	4
5/24(月)	山形市	7 (11)	3
5/31(月)	函館市	26 (25)	3
6/8(火)	仙台市	13 (22)	3
6/8(火)	秋田市	16 (22)	4
6/10(木)	弘前市	60 (73)	6
6/11(金)	青森市	67 (42)	6
計		295 (303)	

※相談者数の()は前年度の数

近年、高校生を始め大学受験関係者にとって、進学相談会が重要な情報源として認識され、その傾向が益々高まっていることが感じられます。

大学PRの場として、進学相談会の重要性を改めて認識し、来年以降の開催に臨みたいと思いますので、教職員の皆様のご協力をお願い申し上げます。



青森会場

オープンキャンパスへようこそ



車椅子介助体験

オープンキャンパスは、本学を志願する受験生がキャンパスを訪れ、カリキュラムの説明や模擬講義、実習体験などを通じて本学を直接体験することにより、本学への理解を深めていただくことを目的に毎年開催しています。

6月20日(日)に開催された今年のオープンキャンパスは、あいにくの小雨の降る天気の中、県内はもとより、北海道・東北各県から高校生など計512名の方が参加し、盛況のうちに無事終了しました。

今年のオープンキャンパスでは、午前の部は、3学科がそれぞれの会場で「オリエンテーション」「カリキュラム説明」「入試ガイダンス」「模擬講義」など、午後の部は、キャンパスツアーとして、参加者が自由に見学や体験ができる各学科ごとの「企画コーナー」や「相談コーナー」のほか、「イングリッシュ・カフェ」「サークル紹介」などが行われ、本学ならではのキャンパスの雰囲気を感じていただけたことと思います。

このオープンキャンパスを通じ、多くの受験生が本学に魅力を感じ、本学を志願することを願っています。

今回の企画に当たった学生募集対策委員会の委員、ご協力いただいた教職員、ボランティアとして参加していただいた学生の皆様に、心からお礼を申し上げます。

＜新任・転入等＞



理学療法学科 教授
成田 寛志 (ナリタ ヒロシ)

スポーツ医学、整形外科学、リハビリテーション医学が専門です。老若男女、障害の有無に関わらず、スポーツ現場における医学サポート充実が健康寿命延長のために必要だと思います。



看護学科 助教授
原田 光子 (ハラダ ミツコ)

地域看護学に所属し、日々肌で青森を感じています。なによりも自然がきれいなことに感動しております。この大学で学生とともに学んでいきたいと考えています。



社会福祉学科 助教授
大竹 昭裕 (オオタケ アキヒロ)

青森市内の大学からこちらにまいりました。保健大学開学2年目から非常勤講師として講義を受け持ってきましたが、専任教員としては1年生、勝手にわからず戸惑うことばかりです。どうぞ宜しくお願いします。



社会福祉学科 助教授
増山 道康 (マサヤマ ミチヤス)

ものぐさな怠け者です。嫌いなことからはずぐに逃げ出します。皆様の叱咤激励が必要です。ホラーでないSF映画と'30アメリカ音楽をこよなく愛する50代です。



看護学科 助手
坂本 祐子 (サカモト ユウコ)

初出勤日に雪が降り、戦々恐々の雪国生活をスタートさせました。前任地も雪国でしたが、徒歩3分の通勤では雪の心配をしたことがなく、もう既に今冬の通勤が不安な生まれも育ちも東北の坂本です。



看護学科 助手
高橋 司寿子 (タカハシ シズコ)

出身の盛岡では、ヘコんだ時や疲れた時にお気に入りスポットの岩手公園で“空に吸はれ”ることが好きでした。青森でもそんなふうに癒される場所を、はやく見つけられたらいいなあと思います。



看護学科 助手
土井 一浩 (ドイ カズヒロ)

出身地の和歌山から神奈川、広島と色々な場所で生活してきましたが、雪が降る所での生活はこれが初めてになります。各方面から微笑みながら「雪かきお願いね」との言葉に少々戸惑いはありますが、雪が降り出すのが楽しみです。



社会福祉学科 助手
長谷川 真理子 (ハセガワ マリコ)

精神科ソーシャルワーカーとして6年間を現場で過ごし、徐々に大学にきました。日々新たな人や出来事に出会っていくことは緊張の連続ですが、そこから経験できる学び合いを大切にしたいと思っています。



事務局 総務課長
小関 公英 (コセキ キミヒラ)

豊かな人間性を育み、ヒューマンケアの実践を目指す本学でキャンパスライフが始まりました。人は皆健康で生きがいのある生活を願っています。正に「人のために生きてこそ人」という思いが一杯です。



事務局 教務学生課長
笹 常春 (ササ ツネハル)

福祉事務所発の夜行列車に乗って、児童相談所、保健所を経由して、小柳駅で降りたら保健大学。趣味は温泉(目標県内百名湯)と酒。第6期生の卒業までの気持ちでがんばりたいと思います。



事務局 教務学生課主幹
佐藤 正幸 (サトウ マサユキ)

就職担当の佐藤です。就職実績集計・報告、求職票などの整理に追われ、業務繁盛の日々です。ただ、「これはまだホンの序の口」という同僚の言葉に、「天は語らずして、人をして語らしむ?」の境地です。



事務局 教務学生課主幹
井筒 智賢 (イツツ トモノリ)

二十歳前後の若者が構内を闊歩する風景も見慣れ、たまには図書館を覗いてみたり、安くておいしい学生食堂で昼食を食べたり、ノスタルジーではなく、職場としての「大学」によりやく馴染んできた気がします。



事務局 総務課主幹
工藤 直之 (クドウ ナオユキ)

[3月異動内示日] (私) えっ、保健大学? 聞いてねーよー。(同僚) 保健大学って忙しいんだつきゃー。(私) なにそれ!。でもきっと、楽しいキャンパスライフだべなー。なんだがワクワクするなー。
[4月赴任後] (私) ……(*_*);。



事務局 企画情報課総括主査
鹿内 亮一 (シカナイ リョウイチ)

本学へは2回目の勤務です。1回目は事務局総務課に所属していました。第10号が発行される頃には、よりスピーディに仕事をこなせ、より多くの方々に顔を覚えて頂くことを期待して止みません。



事務局 企画情報課主査
小田川 聡子 (オダガワ サトコ)

図書館や食堂などで熱心に勉強している学生さんを見るにつけ、はっきりした目的意識もなく過ごした自分の学生時代と比べて感心するばかりです。失いかけた向学心が刺激されますが、誰か、時間をください。



事務局 教務学生課主事
藤井 幸子 (フジイ サチコ)

帰りが遅いことを理由に毎日車通勤をしていたら、体力が無くなってきたような気がします。早く明るい時間に帰宅できるようにして、当初の予定通り電車通勤できるように頑張りたいと思っています。

<昇任>

助教授から教授へ

看護学科教授
大井 けい子
看護学科教授
大関 信子
看護学科教授
中村 由美子
看護学科教授
藤井 博英
理学療法学科教授
尾崎 勇

講師から助教授へ

理学療法学科助教授
川口 徹
社会福祉学科助教授
杉山 克己
社会福祉学科助教授
吉川 公章
助手から講師へ
看護学科講師
木村 恵美子
理学療法学科講師
桜木 康広

<転出等>

県監査委員事務局長
健康福祉政策課副参事・すこやか福祉事業団派遣
政策調整課総括主幹
企画課主幹
こどもみらい課主幹
県立中央病院主幹
県議会調査課総括主査
情報システム課主事
上北地方健康福祉こどもセンター主事
教育庁文化財保護課主事
青森県税事務所技能技師
(退職)
(")
(")
(")
(")
(")
(")
(")

秋元 正隆 (事務局長から)
小野 勝義 (事務局総務課長から)
竹澤 裕之 (事務局教務学生課長から)
松岡 浩美 (事務局主幹から)
本田 親男 (事務局主幹から)
石岡 俊一 (事務局主幹から)
藤田 繁行 (事務局総括主査から)
三浦 浩紀 (事務局主事から)
鶴谷 恵子 (事務局主事から)
根市 茂美路 (事務局主事から)
千葉 雄 (事務局技能技師から)
吉岡 利忠 (副学長・理学療法学科教授)
三栖 郁子 (社会福祉学科教授)
城島 哲子 (看護学科助教授)
秋庭 由佳 (看護学科助手)
佐藤 寧子 (看護学科助手)
館山 光子 (看護学科助手)
田中 克枝 (看護学科助手)
出貝 裕子 (看護学科助手)

[大学院・学部編入学] 平成17年度入学者選抜試験のお知らせ

青森県立保健大学では、大学院及び学部編入学の平成17年度入学者を募集しています。詳しくは、大学院及び編入学の「募集要項」又はホームページをご覧ください。

連絡先／教務学生課入試担当 TEL 017-765-2144 FAX 017-765-2188 E-mail nyushi@auhw.ac.jp

大学院（健康科学研究科修士課程）

募集人員	健康科学専攻…………… 20名 (地域保健福祉学分野、理学療法学分野、 生活健康科学分野、看護学分野)
出願期間	平成16年8月23日(月)～平成16年8月27日(金)
選抜試験	平成16年9月11日(土)
合格発表	平成16年9月17日(金)

学部編入学（健康科学部）

募集人員	看護学科…………… 10名(3年次編入) 理学療法学科…………… 2名(3年次編入) 社会福祉学科…………… 4名(2年次編入)
出願期間	平成16年8月23日(月)～平成16年8月27日(金)
選抜試験	平成16年10月2日(土)
合格発表	平成16年10月12日(火)

編集後記

開学6年目となる今年、本学の入学者数は編入学生と大学院生を含めると延べで1,000名を越え、300名以上が社会へ巣立ちました。来春には大学院修士課程が完成年次を迎え、博士課程設置も計画されています。

「活彩！保健大学だより」は本号が記念すべき10号となります。ミレニアムの3月に発行された創刊号では本学発展への強い熱意が込められており、昨年の第8号では初めての卒業式、大学院修士課程の開設など、本学にとって節目となる特集が多々組まれていました。

今後も大学の今を伝え、多くの方々の想いを詰め込んだ広報誌にしていきたいと思っていますので、ご期待下さい。
(広報委員長／勘林秀行)

◎広報委員会委員：勘林秀行、赤坂和雄、鳴井ひろみ、吹田夕起子、吉川公章、小関公英
◎記録専門部会：高橋佳子、李相潤、八戸宏、工藤乃理子
◎広報担当事務局：其田工（広報委員会事務担当）、藤井幸子（学内広報誌事務担当）



青森県立保健大学

〒030-8505 青森市浜館字間瀬58-1 TEL017-765-2007

編集・発行／青森県立保健大学広報委員会

大学ホームページ <http://www.auhw.ac.jp/>
(バックナンバーもご覧になれます。)